

第4回全国女性町長サミットアピール

平成27年7月2日から3日間にわたり、ラムサール条約登録湿地である渡良瀬遊水地東岸に位置する、水と緑豊かな栃木県野木町で、6名の女性町長が「第4回全国女性町長サミット in 野木」において、ワーク・ライフ・バランスをテーマに意見交換を行いました。

そこで私たちは、町長としての責務を実感し、決意を新たに広く全国に発信するという認識で一致しました。

私たちは、過去3回のサミットを通じて男女共同参画社会の実現や、子育て支援の充実、地域産業の活性化、おもてなしの心を持った地域力の向上、そして、強い絆で結ばれた防災のまちづくりなど、様々な提案をアピールし、実践してまいりました。

現在、少子高齢化と人口減少が顕著となる中、地方創生への取り組みが喫緊の課題となっています。

私たちは、それぞれの自治体にあったスタイルを確立し、女性の視点が施策に活かせるように創意工夫を重ねていくことを確認しました。

一方、女性の社会進出が進む中で、人々のライフスタイルも多様化してきました。豊かで活力のある地域社会をつくるためには、それぞれの能力を発揮し、男女がともに理解・協力し合いながら、各分野で活躍できることが重要であると考えます。

今回の開催テーマである、「男女がともに輝くワーク・ライフ・バランス」を実現するためのアピールとしては、女性町長としての視点をまちづくりに活かし、男女がともに輝くために、思いやりの心をもって、仕事と生活の調和を図っていくことが大切である事を再確認しました。

男女がともに輝くための仕事と生活の調和には、「家庭」「学校」「地域」「職場」「行政」という5つの立場から、「介護や子育てをしながら仕事ができる環境づくり」「女性の仕事をサポートできる環境づくり」「男女共同参画の推進」「生涯を通じた健康づくりの推進」の4つの視点を基に、それぞれ連携・協力して取り組むことが重要です。

この中でも、育児・介護・病人の看護などを含めた「ケア」については、少子高齢化社会において、特に大きな課題となってきました。

私たちは住民の皆様がサポートを必要としている時には「ワーク・ライフ・ケア・バランス」も共に推進できるよう、精一杯努力したいと思います。

また、皆様とともに支えあい、力を合わせていく協働のまちづくりの視点にたち、家庭・学校・地域・職場において、一人ひとりが自分の出来ることをしっかりと活かしていくという高い意識を持ち、住民の皆様自らが主役となって活躍していただくことを期待します。

私たち女性町長6名は、さらにリーダーシップを発揮し、特に「男女がともに輝くワーク・ライフ・バランス」を基点にまちづくりを遂行していくことを宣言します。

平成27年7月4日

第4回全国女性町長サミット参加自治体

福岡県 苅田町長

吉廣 啓子

兵庫県 播磨町長

清水 ひと子

大阪府 田尻町長

原 明美

神奈川県 二宮町長

村田 邦子

埼玉県 長瀨町長

大澤 夕キ江

栃木県 野木町長

真瀬 宏子